

厚別区連携だより



ピカットくん

発行：厚別区幼保小連携推進協議会代表者会

令和4年10月18日(火)、厚別区民センターを会場に、第2回厚別区幼保小連携推進協議会が開催されました。新型コロナウイルス感染症への対応等で急遽欠席された園もありましたが、幼稚園3園、こども園9園、保育所11園、小学校13校、延べ参加人数66名で行うことができました。

今年度は、年間計画でお知らせしていました通り、第2回目も全市共通テーマでの参集型の研修会としての実施となりました。

第1回後に集約した感想で「もっと少ない人数で、じっくり話をしたい」というご要望が多かったことと、コロナ感染症への対応を鑑み、協議グループの人数が8名前後となるよう、通常の5ブロックを8グループに分けて行いました。

代表者の井崎園長からのご挨拶にもあったように、第1回目は短い時間でありましたが、直接顔を合わせて幼保小が話をできたことにより、コロナ禍で途切れがちだったつながりの再構築に動いている園・校の様子も聞かれるようになりました。今回の第2回目も直接、幼保小の先生方が顔を合わせ互いの声を聞くことで、今後の連携を深めたり、「学び」の接続を考えたりする機会になっていくことを願っております。

**令和4年度幼保小連携推進協議会の全市共通テーマ****学びをつなぐ幼保小連携・接続**

～幼児期の教育と児童期の教育の理解を深める～

(1回目:「知る」2回目:「学ぶ」3回目「つなぐ」)

第2回幼保小連携推進協議会(ブロック研修)のテーマ**『学ぶ』**

～子どもの姿から小学校教育につながる学びをみとろう～

※年長児の遊びや友達との関わりが見える写真から

【グループ協議の流れ】

1	○簡単な自己紹介
2	○グループ協議(写真提供:札幌市立あつべつきた幼稚園 年長5歳児の遊びの様子) ・幼児の遊びの写真を見て、子どもたちが遊びを通して「思っていること、感じていること」「この遊びを通して体験していること、学んでいること」などを、一人一人が付箋に書きこみ、模造紙に貼った写真の横に添付していく。
3	・付箋の内容について「なぜ、そう思ったか」を意見交流
4	・配布資料の「10の姿」をもとに、先ほど書き込んだ付箋の内容と、「10の姿」を照らし合わせ、該当する付箋を「10の姿」の下にまとめる。
5	・「10の姿」にあるような姿を育むために、幼保は幼児期の遊びの中で、どのような経験や援助が必要か、或いは幼児期に培われた「10の姿」が、小学校以降の「学び」にどうつながっていくのか意見交流



【グループ協議で話し合われたこと】(グループ協議の記録より抜粋)

①「子どもたちが感じていること」「体験していること=学び」は?

1枚目から

・自分なりに作りたいものをイメージする

「ガムテープの芯で何か作れないかな?」「転がるものが作れるんじゃない?」「どんな風にテープを貼ったらかっこよくなるだろう?」

「〇〇君はどんな風に作っているのかな?」など

・自分なりのイメージを実現するための素材や道具に関わる

「テープを貼る行為そのものが楽しい」「テープをどうやって切ろう?(鋏を使う子、手でちぎろうとする子がいる)「ちょうどいい長さは?」「どうやったらうまく貼れるかな?」「テープを貼ったらかっこよくなったよ」「どうやったらたくさん転がるようになるかな?」など



2枚目から

・実際に作成したものを転がして動きを楽しむ、現象に気付く

「やった!まっすぐ転がる!」「どこまで転がるんだろう?」

「転がすと、テープで貼ったところがきれいに見える」

・「もっとこうしたい!」という思い(探求心)をもつ

「もっと速く転がしたい」「〇〇君とどっちが速いかな?」

「もっと遠くに転がしてみたい」「もっと高いところから(一番上から)転がしたら速くなるかな?」



3枚目から

・伝え合い、協働性、役割分担が生まれる→チームの活動へ

「ジャンプしたよ、これ面白いよ!」「もっと積木を高くしてみない?」

「コースを変えてみようよ(伸ばしてみよう、曲げてみよう)」

「どこをゴールにする?」「僕が上から投げる役になるよ!」



②「幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿」を参考に、今育ちつつある姿が、小学校の生活や学習にどうつながるか？そのために幼児期にはどのような遊びや経験を大切にしていきたいか？

小学校につながる力とは？

- ・個から少人数→集団という過程を大切にすることが「人と関わることが楽しい」という思いにつながり、小学校以降の**社会性、協同性**につながる。
- ・友達との遊びや生活の中で、順番や自分たちが決めたルールを守ったら「楽しかった」「うれしかった」という経験が、**相手を認める心や道徳性**を育むことにつながる。
- ・自分なりにじっくり必要なものを作ったり試したりする経験は、「自立心」を育むとともに、**思考力や数量図形を認知する力**につながる。
- ・子ども達で話し合いながら考えを出し合いイメージを膨らませて遊ぶ経験は、**言葉で伝えあう力、自分たちで考える力、協力する力（協同性）**につながる。
- ・いろいろな素材や道具に触れ、特性や安全な扱い方を知ることが、**健康な心と体の育ち**につながる。
- ・自分たちで考え主体的に取り組む経験は、小学校の生活や学習に何事にも**意欲的に参加する姿**につながっていく。

こんな経験を大切に！

- ・とことんやり抜く力を育むために、失敗してもあきらめず、**試行錯誤しながら最後までやり抜く経験**
- ・今の子はコロナ禍ということもあり、共通の経験がそもそも少ない。遊びや活動を通しての**多様な経験**
- ・互いの良さや短所も**認め合えるような生活経験**

こんな援助や環境の構成を大切にしたい

- ・自分のやりたいことを表現したり**アイデア**を実現したりできるような環境や**探究心**を存分に遊びに生かせる環境
- ・援助しすぎず、子ども同士の**やりとり**の経過を見守るような教師の関わり
- ・「**失敗しても大丈夫**」という**空気感**
- ・子どもの**やる気**を高めるような言葉がけ
- ・子どもが自分なりに考え主体的に取り組もうとする意欲を育むために、**自己肯定感**を高めていけるような関わり



【協議内容の共有】(代表して2つのグループに発表していただきました。…記録より抜粋)

幼児期に育まれた「10の姿」は、いずれも小学校の生活や学習に続いていくということを共有できました。幼児期は遊びが自然に広がるように予想して環境を整えたり、子どもたちの意欲を見守ったり、失敗から学んだりできるよう、大人が口出ししすぎず期待して見守るような関わりが大切だということが話し合われました。

写真から、自主的に“もっと楽しく”と思える笑顔や考える力を引き出す環境づくりの大切さが話し合われました。指示がないと動けない子どもが多くなっているため、安心して思いを伝えられる環境づくりや関わりも大切になってくると思います。



【全体講評】 大谷地東小学校 平野憲一校長より

提供された年長児の写真を見て、私が最初に思ったことは、「みんな難しい顔をして、真剣に何かを作っているなあ。」そして「坂の上から転がすところでは、うまく転がるだろうかという不安げな表情。」「無事、下まで転がった後は喜びと安堵の表情。」が見て取れました。おそらくこの後、ガムテープの芯が転がる様子をみながら、テープを貼りなおしたり、ジャンプ台を作ったり、いろいろと試行錯誤や遊び方を工夫しながら、この遊びが広がっていくのだろうな…などと思いを膨らませていきました。そのうち、自分が子どもだった頃に、プラスチックの板を切ってスキーのジャンプをする小さな人形を作って、家の前に雪山にジャンプ台を作り、そこを滑らせて飛ばせるという遊びに夢中になっていたことを思い出しました。少しでも遠くに飛ぶように、スキーの板を長くしてみたり、滑走路に口を塗ったり…。ふと、我に返ると先生方のいろいろな意見に、「なるほど、そんな見方もあるのか。」「そうか、そんな体験や学びをしていると言えるのだな。」など、様々な見方や発想に感心させられました。たくさんの方々と交流することで、自分一人では決して思いつかない、或いは、気付くことができないことを知ることができる。これが、こうして集まって交流をすることの大きな意義の一つだと改めて感じさせられました。

後半の協議では、「幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿」を窓口として幼児教育から小学校以降の教育の繋がりを明確にしていくための話し合いがなされました。「幼稚園から高校の学校教育を通して育む力」として、三つの資質・能力をバランスよく育むために、幼児期の生活や遊びの中で、どのような経験や援助が大切なのか、また、そのような姿が小学校の学びにどうつながっていくか、などについて意見交流をすることができました。幼稚園教育では、5領域(健康、人間関係、環境、言葉、表現)を総合的に学んでいく教育課程であることに対し、小学校教育では、各教科等の学習内容を系統的に学ぶ教育課程となっています。同様に、子どもの生活リズムに合わせた1日の流れが、小学校では時間割に沿った流れになっています。身の回りの「人・もの・こと」が教材であることに対し、教科書が主たる教材、総合的に学んでいくために工夫された環境構成が、系統的に学ぶために工夫された学習環境となっている、といった違いがあります。私たちは、そのような違いを理解した上で「幼児期の学びの芽生え」を「児童期の自覚的な学び」につなげていかなければなりません。

本日の研修では、具体的な子どもたちの姿を通して感じたことや思ったことを率直に交流しあうことで、幼保と小学校の先生方がお互いの子どもたちへのかかわりや、大げさかもしれませんが、教育的な使命について理解し合える貴重な機会となったのではないかと思います。今日学んだことを早速明日から、それぞれの教室や立場で一人一人の子どもたちに還元していただければ、と思います。



～本日の研修会の感想（アンケートより一部抜粋）～

- ・子どもの姿を写真で見ながら「10の姿」に照らし合わせ意見交流できたことで勉強になりました。実際に行っている保育の方法について、もう少したくさん話を聞きたかった。
- ・幼児期の遊びが学びにどうつながっていくか、満足して遊んだ子たちが、小学校でも生きる＝活きるということが分かりました。45分というタイムリミットがある小学校では存分に遊びに浸らせることができませんが、「結果をねらいにして遊ばせていない」という軸が聞けて、意識の改革となりました。
- ・幼保小それぞれの役割は違いますが、子どもの姿を見るときは変わらない眼差しがあることが感じられました。そして保育者、教師一人一人に、それぞれ違う感性や視点があり、同じ写真を見てもたくさんの言葉が出てきて楽しかったです。
- ・小学校の先生方の考えを聞くことができとても新鮮でした。小学校の先生と話をすることで、今私たちが取り組んでいることが小学校でどのように生かされるのかを聞くことができ、大変勉強になりました。
- ・特に新1年生のスタートカリキュラムにおいて、幼保の先生方の考えが生きたものにしたいという思いが高まりました。

～来年度の幼保小連携推進協議会の研修内容や進め方について（アンケートより抜粋）～

- ・何度か参加していますが、今回のグループワークのやり方はいつもより他の方と意見交換ができたように感じます。司会の先生がうまく話を進行してくださったおかげで充実した時間となりました。
- ・小学1年生の入学後の姿や日常の姿をもっと知れるような研修がしたいです。
- ・幼保小の通常の一日の流れの交流、年間行事内容の交流などがあっても良いのではと思いました。
- ・小学校の授業の様子や幼保の活動の様子など映像で交流できても面白いですね。
- ・幼稚園の遊びだけではなく、1年生の姿から幼児期に必要な学びを考える機会があると嬉しいです。
- ・「幼保小の話す時間が足りない」という話を受けての内容と伺いましたが、だとするとやるべきことが多すぎました。交流をメインにするのであれば、話題の柱のみを用意するなどしてはどうでしょう。

『第3回厚別区幼保小連携推進協議会 幼保小連絡会』

【日時】 令和5年1月12日(木) 13:30～16:30

- 【内容】
- ・保護者の了解を得た、引継ぎが必要なお子さんの電話での引継ぎになります。
 - ・12月中旬頃、幼児教育センターが作成した「時程表」が送付されますので、そちらをご確認ください。

参集型で実施した今年度の2回の協議会が終わりました。

次年度の協議会がより良いものとなるよう代表者会でも検討していきたいと思っております。たくさんのご協力をいただき、ありがとうございました。

